

平成29年度第1回江別市学校給食用食器検討委員会議事録

日 時	平成29年5月23日（火）14時54分～15時39分
場 所	江別市給食センター会議室
出席委員	泉山委員長、服部副委員長、遠藤委員、福土委員、長谷川委員、東川委員、鈴木(律)委員、三好委員、鈴木(正)委員、西委員、東委員（11名）
欠席委員	菅沼委員（1名）
事務局	渡部教育部長、萬教育部次長、鈴木給食センター長、森山業務係長、福井業務係主任（5名）
傍聴者	1名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 部長挨拶 4 委員自己紹介 5 委員長・副委員長の選出 6 委員長・副委員長挨拶 7 説明・報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 前回までの検討委員会概要について (2) 平成24年度以降の食器購入について (3) 道内共同調理場における箸の使用状況について (4) 道内共同調理場における箸の材質に関する調査結果について 8 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成31年度以降の箸の選定について 9 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・別添資料 学校給食用食器検討委員会の検討概要 ・別紙資料1 江別市給食センター食器購入一覧 ・別紙資料2 道内市町村の食事用具等調査結果一覧 ・別紙資料3 道内共同調理場の箸に関する調査集計表

▼会議内容

【委嘱状交付】

○給食センター長

開会の前に委嘱状の交付をさせていただきたいと思います。

○渡部教育部長

それでは、新たに委員になられた方に対し、委嘱状を交付したいと思います。

（泉山委員、遠藤委員、福土委員、服部委員、長谷川委員に委嘱状を交付）

【教育部長挨拶】

○渡部教育部長

まだ、傍聴の関係もありますので、委員会は3時から正式に始めますが、その前に私から挨拶を申し上げます。

本日は、平成29年度第1回目の江別市学校給食用食器検討委員会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。皆さま方におかれましては、江別の学校給食について、ご指導ご協

力を賜りましていることにつきまして、この場を借りまして深くお礼申し上げます。

平成28年度末に一度この食器検討委員会を開催させていただきました。その際にこれまでの経緯、考え方と一定の方向性について説明申し上げましたが、この29年度新たに委員の方が替わられるものですから、改めて今日は同様の説明になります。繰り返し要点を掻い摘んで説明をさせていただきたいと思います。

江別の学校給食は非常に全道的にも評判がよろしくて、私が先日ちょっとした所で聞きましたところ、江別で給食を食べていた方が、他の町に行きましたら、江別の給食に戻りたい、江別の給食が食べたいといううれしい話も聞こえてまいりました。そのくらい評判がよろしいようです。こうした中、江別市におきましても今年、三好市長が、健康都市宣言を4月1日に宣言いたしました。この中で食育についても関心が高く、また食を通して、子どもたちの健康づくりに寄与していきたいという市長の熱意もあるものですから、ますます学校給食、それから食育の社会的な使命が高くなっていると認識しているところであります。

いずれにいたしましても、この委員会におきましては、これから児童生徒が直接使う食器について、ご意見を伺う場になっています。それぞれ委員のみなさんの忌憚のない意見をいただきながら、江別の食器について選定してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

なお、日程的には、今年度中には一定の方向性を出したいと考えておりますので、そのようなお含みおきの中で結論を出していただければと思います。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

【開会】

○給食センター長

それでは改めまして、平成29年度第1回江別市学校給食用食器検討委員会を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、当委員会にお集まり頂きましてありがとうございます。また、この度は、各機関・団体からの推薦で委員をお引き受けいただきましたことに対し、お礼申し上げます。

私は当委員会の事務局を務めております、給食センター長の鈴木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

また、左隣は、ただ今挨拶させていただきました教育部の渡部部長、その左隣は、同じく教育部の萬次長でございます。後部座席左側は森山業務係長、右側は福井主任でございます。

学校給食用食器検討委員会は、委員12名をもって組織されており、児童及び生徒に対し、安心して提供できる学校給食用食器の選定について検討するため、学校給食用食器の安全性等に関する調査審議を行い、食器の更新、選定について教育委員会に意見・提言等を述べることを目的としております。その食器のうち、現在使用しております給食用箸の選定における詳細につきましては、前回、今年2月28日に行われました「平成28年度第1回江別市学校給食用食器検討委員会」で説明いたしましたが、今回の委員会において代わられた委員の方々が多数いらっしゃいますことから、後ほどあらためて選定までの経過についてご説明いたします。簡単に経緯を申し上げますと、平成24年2月から平成25年11月まで計8回の江別市学校給食用食器検討委員会での審議を経て、平成25年12月25日開催の教育委員会において「ポリエチレン テレフタレート製箸、通称PET箸」を承認、選定したものであります。この「PET箸」は、平成26年度から使用を開始し、耐用年数は5年となっております。更新時期は再来年度の平成31年度になりますことから、平成31年度以降に使用する箸の選定を検討するために、委員会を開催するものであります。

【資料確認】

○給食センター長

それではここでも、事前にお配りした資料の確認をさせていただきます。

本日使用する資料は、事前に送らせていただきました、・次第、・委員名簿、・別添資料、・学校給食用食器検討委員会の検討概要、・別紙資料1 江別市給食センター食器購入一覧、・別紙資料2 道内市町村の食事用具等調査結果一覧、・別紙資料3 道内共同調理場の箸に関する調査集計表をお配りしております。

不足等はありませんでしょうか。

(不足等なし)

【委員自己紹介】

○給食センター長

委員会の委員長が選任されるまでの間、私が進行を務めさせていただきます。現時点で定数12名のうち現在11名の出席があり、本委員会は成立しております。

次に、新しく委員となられた方々も多少いらっしゃいますので、自己紹介をお願いしたいと思います。

お名前とともに所属など、簡単に結構ですので自己紹介をお願いいたします。

(委員自己紹介)

【正副委員長の互選】

○給食センター長

それでは、委員長・副委員長の選出ですが、選出方法につきまして、どなたかご提案はございますか。

(事務局一任の声)

○給食センター長

「事務局一任」の声がありましたが、皆様にご異議がなければ、事務局案を提示させていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

○給食センター長

それでは、事務局案をお示しします。

従前より、その経験や立場などを踏まえ、会長には小中学校の校長先生から、副会長には食器を使用する児童生徒の父母の代表として江別市PTA連合会から、選出しておりますことから、委員長には泉山委員を、副会長には服部委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

賛同いただけましたら、拍手をお願いいたします。

(拍手)

○給食センター長

ありがとうございます。それでは、委員長は泉山委員に、副委員長は服部委員にお願いさせていただきます。

それではおそれいりますが、泉山委員長、中央の委員長席にお移りください。

(泉山委員長、委員長席に移動)

○給食センター長

それでは、委員長と副委員長から、一言ずつご挨拶をお願いいたします。

○委員長挨拶

改めまして、皆さんこんにちは。

今、委員長ということで推薦されました、泉山でございます。冒頭部長がおっしゃったように、江別の給食とてもおいしく毎日いただいております。箸の選定から5年経って、平成26年からですから、平成30年までですね、平成31年からまた更新ということで。子どもの安心・安全、食育という面で、とても大事なことでありと思っておりますので、いろいろな資料をいただいております。その資料に目を通していただきながら、また31年からの箸の選定ということで、どうかよろしくをお願いいたします。

○副委員長挨拶

はじめまして。ただ今副委員長にご指名いただきました服部でございます。

子どもを持つ親の一人として、学校給食を支えていただけの方がこんなにいるということを、改めて感謝している次第です。何もわからずご迷惑をおかけすることもあると思いますが、一生懸命勉強して参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○給食センター長

泉山委員長、服部副委員長ありがとうございました。

続きまして、議事に入る前に、江別市学校給食用食器検討委員会の公開につきましてご説明いたします。

市では、江別市情報公開条例第20条の規定により、市民の市政への参画を促進するとともに、公正で透明な市政を推進するために、審議会等は支障のない限り公開を原則としており、この審議会でも傍聴者を認めております。また、会議の議事概要として、発言内容を発言者の氏名とともに市のホームページ等で公開いたしますので、ご了承いただきたいと思っております。本日は、1人の傍聴希望者が待機しております。入場いただいて、これ以降の議事を傍聴いただこうと考えておりますが、よろしいでしょうか？

(傍聴者入室)

○給食センター長

傍聴者の方に申し上げます。

会議の開催中は、静穏(せいおん)に傍聴することとし、拍手その他の方法により賛成、反対の意向を表明するような行為はご遠慮いただいておりますので、ご協力の程をよろしくお願いいたします。

それでは、次第の5. 説明・報告事項に入りたいと思っております。

これ以降の議事の進行につきましては、泉山委員長、よろしくをお願いいたします。

○委員長

さっそく進めてまいります。

次第7「説明・報告事項」として、

「(1) 前回までの検討委員会概要について」から「(4) 道内共同調理場における箸の材質に関する調査結果について」まで、一括して事務局より説明願います。

【説明・報告事項】

(1) 前回までの検討委員会概要について

○給食センター長

4月の人事異動や役員交代に伴い、新たに5名の委員が就任されましたことから、2月の委員会の説明と重複しますが、あらためて、現在使用している学校給食用箸が、PET箸に選定された経緯等について説明いたしますが、開催通知を送付した際、検討概要書を同封していますので、ここでは、概略説明にとどめさせていただきたいと思っております。

現在使用している箸は、平成24年2月14日の第1回検討委員会から平成25年10月12日平成25年度第2回検討委員会まで計8回の江別市学校給食用食器検討委員会での、検討会議を経てPET箸に選定されております。

主な検討内容は、選定するに当たり、竹箸とPET箸が候補に残り、竹箸については2か月間給食センターで試用した結果、竹の特性と考えられる若干の曲がりが生じ、また箸の先端から40%程度の部分の色が少し濃くなっているものがありました。

PET箸については、使用材料の中の充填剤について疑義が生じたため、販売会社に確認しましたが、「安全なものを使用しているが、企業秘密であることから公表はできない」との回答がありました。

検討委員会では、これらの問題点について検討しましたが、竹箸の先端部の黒ずみについては、衛生面での安全性を危惧する意見が出されました。

また、PET箸については材質中成分が明らかにされない材料について、安全性が確保できないとの意見が出されました。

どちらの箸も100%安全との確証が得られず、どちらの箸にするかの意見統一ができない中、長期間使用してみて判断するという案について、全員の賛同を得、その後約6か月間第三中学校と大麻小学校の2校で竹箸を使用したところ、使用した学校の児童生徒及び教職員の意見は、竹箸については、ささくれ、着色、曲りについて気にならないとの感想・意見が大半だったのですが、一部には、最初はささくれの破片がたくさん落ちていた、黒ずんでいる、着色がある、歯型がついているなどの感想・意見もありました。

その後も検討を重ねる中で、「黒ずみは油分などが染み込んでいるのではないかと不安を感じる。洗浄時に洗剤成分も染み込むことが考えられ、衛生面で不安がある。ささくれについても食器に付いて食材に混入する可能性があり、対応が難しい。コストを抑える点、PET箸が危険と判断できない限りPET箸でお願いしたい。」などとの、賛成する意見が多数となったPET箸を選定するとの結論に至りました。

この結果について、平成25年12月12日付けで、教育委員会に報告をし、それを受けて、教育委員会において、平成25年12月25日付けで、学校給食用食器の箸については「PET箸」が承認、選定され、平成26年度から使用を開始しております。平成28年度第1回食器検討委員会を2月28日に開催し、現在使用しているPET箸が平成31年度から新たに更新されることを踏まえ、平成26年度にPET箸の選定に至った経緯等についてご説明いたしました。

(2) 平成24年度以降の食器購入について

続きまして、「(2) 平成24年度以降の食器購入について」、ご説明いたします。

別紙資料1「江別市給食センター食器購入一覧」をご覧ください。

平成25年度にPET箸を購入後、破損などの理由により、平成26年度と平成27年度に小中学校用箸をそれぞれ300本補充しています。

なお、カップと皿の購入についても破損に伴う補充によるものとなっております。

(3) 道内共同調理場における箸使用状況について

続きまして、「(3) 道内共同調理場における箸使用状況について」、ご説明いたします。

別紙資料2「道内市町村の食事用具等調査結果一覧」をご覧ください。

道内調理場における食事用食器の一覧表となっています。4ページの総括表をご覧ください。

199調理場のうち、箸の支給している調理場は101調理場となっており、割合としては、51%となっています。

(4) 道内共同調理場における箸の材質に関する調査結果について

続きまして、「(4) 道内共同調理場における箸の材質に関する調査結果について」、ご説明いたします。

別紙資料3「道内共同調理場の箸に関する調査集計表」をご覧ください。

こちらは、箸を支給している、1,000食以上の道内共同調理場、19調理場における箸の材質についての調査結果になります。

江別市と同じPET箸を使用している調理場は、江別市のほかに北広島市と八雲町の調理場になります。なお、最も多く使われている材質は、アミハードで、こちらは、釧路市のほか計5市町で使われております。

事務局からの説明は以上です。

○委員長

給食センター長から、一括して説明がありました。

まず、平成26年度から現在まで使用しているPET箸についてでしたが、竹箸も候補に挙げられたようですが、黒ずみなどの衛生面やコスト面などにより、PET箸に至っているということでした。

次に資料2は道内の状況ですが、まとめたものが4ページに載っていますが、持参と支給は約半々くらいようです。持参となりますと、忘れる場合などもありますので、江別市の場合は、支給ということになっているようです。

四点含めまして、何か質問、再確認等はありませんでしょうか。

○委員長

コスト面においては、竹箸よりPET箸のほうが、安くなっていますね。

近隣では北広島市が、PET箸を使っていますね。

○鈴木（律）委員

資料3の「道内共同調理場の箸に関する調査集計表」ですが、1,000食以上の共同調理場と言うのは、いわゆる給食センターということですね。1,000食以内の小さな調理場については、状況が違うなどのことから調査を行っていないのでしょうか。

○給食センター長

小さい調理場では、箸の使用や洗浄の仕方等の状況も違いますので、ある程度の規模のところということで、1,000食以上を対象という判断をさせていただきました。

○委員長

今話したような理由により、1,000食以上の調理場とし、自校給食の調理場は対象としていないということでもよろしいでしょうか。

○東川委員

札幌市の場合、自校での調理数は、1,000食以上ではないのかもしれませんが、札幌市は市としての規模が大きいことから、以前も出されたことがなかったの、知りたいと思ったのですがいかがでしょうか。

○給食センター長

札幌市の場合自校給食ですが、調べられる範囲で調べたうえで、次回の委員会で用意させていただきたいと思います。

○福井主任

単独校調理場のものもお出しはしていませんが、手元にあります。

札幌市の場合、箸は支給です。大きなところでは、函館市も支給、小樽市では持参となっております。

○委員長

他に質問等が無ければ、これで説明・報告については終了し、次第8の協議事項として、(1)平成31年度以降の箸の選定について、協議していきたいと思います。

【協議事項】

(1)平成31年度以降の箸の選定について

○給食センター長

現在使用している、「PET箸」は、平成26年度から使用しており、耐用年数は5年となっており、次の更新時期は平成31年度になります。更新に際しては、この委員会で検討すること、また納品期間及びその経費の事務手続きの関係もあることから、更新前に委員会を開催した次第です。

以上です。

○委員長

次回31年度から更新ということになりますので、2年前ではありますが、予算等の問題もありますので前倒しで検討するという事です。前回は26年度からの使用でしたので、平成24年と25年に検討していますので、概ね5年に1度開催するという事です。

何かご質問等はありませんか。

○遠藤委員

資料3道内共同調理場の箸に関する調査集計表にでていの中で、ポリカーボとか強化ナイロン樹脂などを他の管内で使用しているのですが、PET箸とそれらの素材との比較は、されなかったのでしょうか。

○福井主任

前回の時も、これら道内で使っている箸も考えましたが、比較の問題となりますが、プラスチックの中では、PET箸がより安全であるとして挙げたものであります。

○委員長

大きく分けると、竹箸とプラスチック系とに分かれるのですね。プラスチック系の中で安全性、耐久性等を考慮して、今使用しているPET箸を選定した経緯があるということですね。

○鈴木（律）委員

意見になりますが、できれば前回のご挨拶の時にも、渡部部長から給食は食の最後の砦です、というようなご挨拶もありましたし、今日の挨拶の中でも、食育という言葉があったのですが、やっぱり給食で子どもたちのことを考えるのであれば、できれば自然素材のものを子どもたちに使わせたいということが、私たちの会の思いでもありますし、もちろんPET箸も普段手にすることも多いですし、不便を感じないことも存じてはいるのですが、やはり、今回決まった前回のもを見ると、このPET箸は、中身の使われている材料がすべて明らかになっているわけではなく、そういうこともありますので、いろいろ問題ももちろんあります、百パーセントのものはないということはあったのですが、やはり子どもたちのために天然素材の竹を含めて他にも何か優れたものがあるのであれば、天然のものでという方向で話していただきたいとあります。

○委員長

先ほどの経緯の中にありましたが、前回は大麻小学校と第三中学校の2校で、6か月間の試行を行った結果、黒ずみ、ささくれがあったことを踏まえ、1年間で200食使うということも含め、総合的に判断されたということですね。そういった意見を加味しながら、自然素材を含めて考えてほしいということですね。また、札幌市の調査結果も参考になるのかもしれませんが、そういったものも含めて検討をよろしくお願いします。

○副委員長

別紙3道内共同調理場の箸に関する調査集計表を見ると、強化ナイロン樹脂が最も多いのですが、単価を見ると決してそれほど安くはないことがわかります。にもかかわらず、この中で一番導入の数が多い安全面などで信頼度が高いとか利便性があるといった背景などがあれば、もし把握されているのであれば、教えていただきたいのですが。

○給食センター長

前回検討した時には、強化ナイロン樹脂よりもPET箸の素材のほうが、より安全であると判断され、最終的には、PET箸と竹箸との比較になったとの経緯があります。ただ、今もう5年経過しておりますので、改めて、強化ナイロン樹脂等も含めて、検討する必要があると考えております。

○委員長

それでは、ご意見にありましたように、最初からPET箸ありきではなく、子どもの安心安全を考えての比較、札幌市の状況、同じプラスチック系の素材においても何種類かありますので、その辺りの詳細な検討を協議していきたいと思っております。

今後の進め方についてはどうでしょうか。事務局からあればお願いします。

○給食センター長

箸の材質については、様々な材質がありますので、他の市町村で使用している材質ごとの比較の資料を皆さんにお示しいたしたいと思っております。現在使用しているPET箸も含めて意見をいただきながら、先ほどお話がありましたように、自然素材の箸との比較の中で検討して頂ければと考えているところであります。

○委員長

皆さんの意見を踏まえて事務局から提案がありましたので、2回目以降そのような形で、進めて行きたいと思っております。

それでは、以上で本日の平成31年度以降の箸の協議について終了したいと思います。
その他、事務局から何かありますか。

○給食センター長

次回の開催日程についてご説明いたします。次回の第2回食器検討委員会の日程ですが、7月上旬を予定しております。決まりましたら、開催案内をお送りいたします。
事務局からは以上です。

【閉会】

○委員長

それでは、以上をもちまして、これで第1回江別市学校給食用食器検討委員会を終わります。
皆さん、お疲れ様でした。